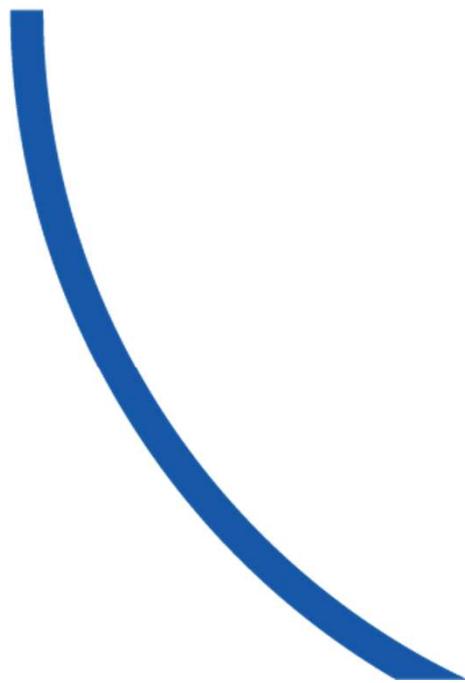


鳥取市



【A. 取り組みの全体像】

1. 自治体の概要

	自治体名		鳥取市		担当部局名	鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター	人口	188,465 (人) <令和2年10月/国勢調査 >
	自治体内連携	庁内連携部局 (メイン)	鳥取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター		庁内連携部局 (メンバー)	総務部人権政策局 (人権推進課)、福祉部 (地域福祉課、長寿社会課、中央包括支援センター)		
		連携内容	中心となって孤独・孤立対策を推進		連携内容	関係機関 (市役所内の部署、社会福祉協議会等の関係団体) との連絡調整 (地域包括ケアシステム推進連絡会議)		

2. 形成をめざす地方版連携PFの姿

従前の取り組み <small>※重層の取り組み、外部組織連携、地域コミュニティ形成等</small>	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年に初めて地域福祉推進計画を作成、まず包括的支援体制の整備に取り掛かり、その後、重層的支援体制整備事業に移行。アウトリーチ等を通じた継続的支援を実施中。 令和4年度に鳥取市孤独・孤立対策官民連携PFを構築 令和5年度に生活圏の中核である鳥取市と周辺市町との連携の必要性から、7月に「麒麟のまち連携中枢都市圏」である鳥取県周辺4町 (智頭町、八頭町、若桜町、岩美町)、兵庫県2町 (新温泉町、香美町) の各町担当課に説明し賛同を得る。その後鳥取市長より連携PFの推進を表明し、10月に各町担当者会議を開催。11月2日に広域展開する方針を創生戦略会議 (首長会議) で方針を決定した。 	実現したい状態 <small>※構築する仕組み／支援対象の住民を取り巻く環境</small>	今年度のゴール	<ul style="list-style-type: none"> 各自治体での研修の開催やつながりサポーター養成講座を通じて、広域でのPFを実効的なものとすること。 鳥取市内における支援者同士のつながりを強化すること。 つながりサポーターの拡大だけでなくつながりサポーターのステッパップを図ること。
			最終的なゴール	<ul style="list-style-type: none"> つながる：困難を抱えている人が声を上げやすい地域にする。 つなぐ：孤独に陥りそうな方に、関わらないようにするのではなく、地域全体で心配・気配りができるような地域にする。 場づくり：行政の制度で支援が及ばぬ住民等に対する個別支援事例の積み上げにより、地域における孤独孤立の問題の解決の仕組化を目指す。(社会資源の開発) ⇒上記を「麒麟のまち圏域」で実現する

3. 地方版連携PFの外部連携体制

地方版連携PF <small>立ち上げ年度 令和4年度 ※広域は 令和6年度</small>	参画メンバー	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人、協同組合、社会福祉法人、医療関係組織、一般社団法人 地域食堂ネットワーク (郵便局、銀行、IT企業)、人権教育推進協議会 鳥取市、八頭町、智頭町、若桜町、岩美町、新温泉町、香美町
	選出・打診時の工夫	孤独・孤立に関する住民接点を持つ団体を選出 麒麟のまち圏域での広域でのPFを形成する
地域協議会 <small>立ち上げ年度 未 (代替あり)</small>	参画メンバー	- (鳥取市では、重層的支援体制における「相談支援包括化推進会議」を地域協議会の役割として活用する。)
	選出・打診時の工夫	麒麟のまち各自治体で協議会は独自に進める。各町で抱えきれない場合には、鳥取市の協議会で検討・議論することを検討。

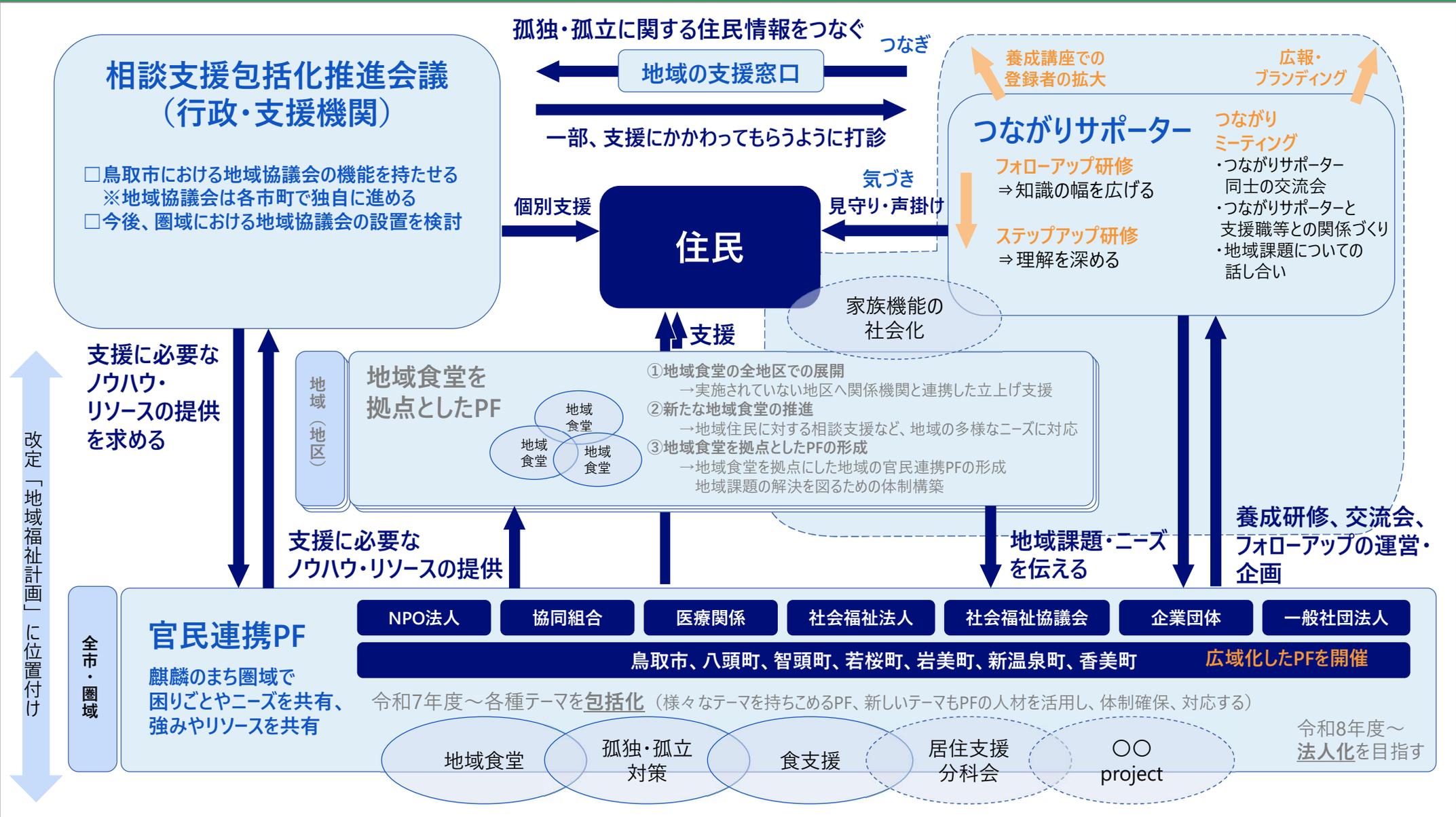
4. PF連携による価値や工夫_考え方

- 広域でのPF設立にあたって、まずは各地の温度感を高めるべく、**各地域での研修の開催や支援者同士の交流会を開催**し、圏域全体での支援体制の強化をする。
- つながりサポーターとして登録した人に対して、**知識を広げたり、深めたりするとともにつながりサポーター同士で交流できる機会を提供**することで、つながりサポーターとして活躍してもらえるようサポートする

【B.連携PFイメージ】

凡例 試行的事業
今後の展望

5. 連携PFのイメージ図



【C.試行的事業】_一覧

6. 本年度に取り組む試行的事業の概要

試行的事業の ポイント・工夫

□ 鳥取市だけでなく麒麟のまち圏域でのPFの体制構築にむけて、各市町における理解促進を進める。圏域を超えて支援者がつながり、共感できる場を作る。

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
1 麒麟のまち孤独・ 孤立対策官民連 携PFの開催	<ul style="list-style-type: none"> テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、ゆるやかなPFを構築し、その時に合わせて、包括されたPFや会議体のネットワークを活かして、プロジェクトや分科会として動けるような体制を検討した。 第1回は8月22日に実施し、顔合わせおよびやりたいことを募った。参加者は各自治体の担当レベル、社協、企業・団体で23～24名程度が参加した。 第2回は会議ではなく研修会の形式で各地で実施した。 【講師を呼ぶ研修会の開催】鳥取市 (12/7)、智頭町 (1/26)、岩美町 (2/21)、新温泉町 (2/28) (※八頭町、新温泉町、岩美町ではつながりサポーター養成研修も開催) 第3回として、3月に今年度の振り返りおよび来年度の取り組みについて議論する予定。各市町村から多様な企業・団体等を提案、声掛けしてもらうことでPFを拡大していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと 市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること <p>成果検証結果</p> <p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自治体の独自性を守りつつ連携することが必要であり、つながりサポーターを1つのキーワードとして連携できる可能性が示唆された。 自治体によって温度感の差はあり、広域連携では都道府県等による自治体のモチベーションは重要 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地単独では開催できなかった研修会を開催することができたことが好評であった 各地域で開催することで住民が参加しやすかったり、別の自治体職員が他地域を訪問し、交流するきっかけとなった 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 1回目 8月22日 ✓ 2回目 12月～2月 ✓ 3回目 3月14日 	有識者謝金、交通費、宿泊費 (研修会4回、講師7名、50万円程度)
2 麒麟のまち 支援職 つながり 交流会	<ul style="list-style-type: none"> 講師にNPO法人花 理事長 目崎 智恵子氏を呼び、講演を行った。 さらに、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話し、つながる機会とした。問題解決を目指すものではなく、共感や共有の場とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援職に対して課題の解決だけでなく、話を聞いたり、伴走する支援もあることをインプットすること 支援職同士が市町の垣根を越えてつながること、同じ環境下にある支援者同士が共感、情報共有できる場を提供すること <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者は37名であった。20代8名、30代8名と若い世代の参加も多かった。 参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。 また、今後の行動変容につながる内容として、もっとできることがあると思った、地域とのつながりをつくりたい、といった意見が出された。 	11月11日 (月) 13:30～15:30	謝金、交通費、宿泊費 (2万円程度)
3 PFメンバーの視察 研修	12月10日～11日にPFの参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。 成果を踏まえてPFの今後の活動に資するレポートを作成した。	<ul style="list-style-type: none"> PFメンバーの孤独・孤立対策についての理解を深めること、PFの活動方針について新たな視点を取り入れ、自ら考えてもらうこと。 <p>成果検証結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加者レポートを通じて、視察で新たなアイデア等を知って、今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。 視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりができた。 	✓ 12月10日～11日	日ノ丸産業株式会社 (33万円)

【C.試行的事業】_一覧

事業名称	事業内容	目的／期待効果・KPI	実施時期	発注先 (予算)
4 つながりサポーターの取組のブランディング・広報	官民連携PFやつながりサポーターの取組について、広く周知するだけでなく、地元にある良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを実施した。広報動画の作成と合わせて、養成講座の動画の内容も更新を行った。 具体的には、広報としてどの手法が効果的なのかを把握するためにテレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディアMIXでの広報、地域でのコラボイベントの開催等を実施し、実施後に認知度調査を実施することで効果測定を行った。つながりサポーター拡大にむけて受講者に配布するピンバッジの制作も行った。	<ul style="list-style-type: none"> 官民連携PF、つながりサポーターの存在を広く周知すること 官民連携PF、つながりサポーターを地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと 	✓ 12月～2月	m&m.co (69万円)
		成果検証結果 ➢ 広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCMの効果も確認された。		
5 ※参考 つながりサポーター養成講座の開催・展開の検討	<ul style="list-style-type: none"> 麒麟のまちの各町からの希望をとり、鳥取市以外の麒麟のまちにおいてもつながりサポーター養成講座の集成型研修を開催した。 【PFの一環として各地で開催した講座】 職員向け：八頭町（12/20）、民生児童委員向け：新温泉町、岩美町 つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の講座について検討を実施した。 【専門職向けのつながりサポーター養成講座】 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。10月9日（水）に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。 【つながりサポーターフォローアップ研修】 つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。 【つながりサポーターリーダー養成研修】 つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には講座そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 麒麟での広域のPFにおいて共通のキーワードとしてつながりサポーターを育成すること。 専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成講座の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。 	【通常開催】 ✓ 5/20、6/17、7/15、8/23、9/23、10/21、11/18、12/16 【麒麟のまち圏域での開催】 ✓ 5月～12月 【その他出前講座】 ✓ 7月～2月 【つながりサポーターフォローアップ研修】 ✓ 11/7 【展開の検討】 ✓ 10/9に検討会を実施	費用なし つながりサポーターフォローアップ研修は別事業で推進
6 ※参考 つながりミーティング	つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと相談支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。 ▶河原中学校区（8/28） ▶高草中学校区（12/14）	<ul style="list-style-type: none"> つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。 	✓ 河原地区 8月28日 10:00～12:00 ✓ 高草地区 12月14日 13:30～15:30	費用なし
		成果検証結果 ➢ つながりサポーターがどこにいるのかわかることができたという声や、つながりサポーターがつなぎ先の支援団体と顔の見える関係ができたとの声が出た。 ➢ 一方で、もっと多くのつながりサポーターとつながりしたいといった意見も出た。		

7.次年度以降に向けた事業等の案

※PDCAサイクルに照らして次年度以降に取り組んでいく事業イメージ（あれば）を例挙

- 令和7年度にPFの包括化を推進する
- 継続的な運営体制の構築として令和8年度に向けてPFの法人化を目指す。

8.孤独・孤立対策を公表した際の反響

- 広報に関しては、令和5年度の市民意識調査では23.3%の認知度だったところが、令和6年度の1月より実施したメディアミックスでの広報により認知度が約20%上がった。
- 広域連携に関しては、各町においても共通の課題であったなかで単町で事業化することの負担が軽減されることになり、好意的な受け止めがあったため、実施体制を構築することができた。

【C.試行的事業一覧】_1.麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFの開催

概要	<ul style="list-style-type: none"> 麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携PFを開催した。第1回は顔合わせとして全体会合を鳥取市で開催し、第2回は各地域で講師を呼ぶ研修会を開催した。第3回として振り返り会を3月に開催する予定である。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に方針決定した広域でのPFを立ち上げ、各地域の意向を確認しつつ広域での連携をすすめた。 テーマごとにPFや会議体を作るのではなく、柔軟なPFを構築し、必要に応じてプロジェクトや分科会として動ける体制を検討した。

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 麒麟のまち圏域での一体的なPFの体制構築を行うこと。 市町の範囲を超えてリソースを共有し、一体的な支援を提供できるようにすること。
結果	<ul style="list-style-type: none"> つながりサポーターを共通のキーワードとして連携していく、今後のPFの体制や取組事項の整理ができた。 研修会を開催できたことが好評で、住民が参加しやすく、自治体職員が他地域を訪問し交流するきっかけとなった。

PFの開催概要

- 第1回は顔合わせとして全体会合を鳥取市で開催し、第2回は各地域で講師を呼ぶ研修会を開催した。

	開催場所	日時	講師
1	鳥取市 鳥取市役所 本庁舎 多目的室2.3	12月7日 (土) 13:00~15:30	1 厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室長 吉田昌司氏 2 特定非営利活動法人抱樸 希望のまち事業部 部長 中間あやみ氏 3 鳥取市中央人権福祉センター 所長 川口寿弘氏
2	智頭町 保険・医療・福祉総合センター “ほのぼの”内 ひだまりホール	1月26日 (日) 10:00~11:30	1 社会福祉法人 高崎市社会福祉協議会 伊藤岳央氏
3	岩美町 岩美すこやかセンター 2階 大会議室	2月21日 (金) 14:00~15:30	1 美作大学 社会福祉学科 講師 中島大棋氏 2 松江市社会福祉協議会 生活支援課 副主任 三好良知氏
4	新温泉町 新温泉町文化体育館・夢ホール	2月28日 (金) 14:00~15:30	1 一般社団法人コットンママ 渡邊美代子氏 2 当事者だった少年

開催結果

- 広域のPFにおいて開催場所が遠方だと参加しにくい、各地で講演会を開催することで鳥取市民以外の住民や支援者も参加することができた。
- 各自治体だけでは、講師を呼び開催することが難しい講演会を広域連携によって開催できたという声があった。
- 各地で開催することで、麒麟のまち圏域の自治体職員が、鳥取市以外にも自治体を訪問する機会ができ、自治体職員同士が交流する機会にもなった。

鳥取市での開催の様子



新温泉町での開催の様子



【C.試行的事業一覧】_2.麒麟のまち支援職つながり交流会

概要

- 支援職のつながりづくりを目的に支援職つながり交流会を開催した。講師にNPO法人花 理事長 目崎 智恵子氏の講演および、支援職のかかえる困難について、支援職同士で話す機会とした。

工夫点

- 支援職同士がかかえる困難について話し合い、つながる機会をつくる。問題解決ではなく、共感や共有の場とする。
- 同業種、別業種の支援職と話せる機会を設けた。

ねらい

- 支援職に対して、課題解決だけでなく、話を聞いたり伴走する支援もあることを伝えること。また、支援職同士が市町の垣根を越えてつながり、共感や情報共有の場を提供すること。

結果

- 参加した支援職からは「多職種の人と交流できたことで、考え方の違いを知ることができた」、「地域とのつながりを考えていきたい」等の意見が得られた。

グループワークの工夫点

- グループワークでは、テーブルに模造紙を固定し、意見を模造紙に書きながら対話をした。1回目のグループワークを実施した後、席を移動し別のメンバーとの対話を行う。2回目のグループワークでは、その場に集まった人だけでなく1回目のグループワークでどんなことを話したのか、模造紙を見て知ることができる。
- グループワークのメンバーは、1回目は別業種、2回目は同業種として、別業種の支援職の想いを知ったり、同業種の支援職と共感しあったりできるように工夫をした。また、広域で開催することで、日頃あまり同じ状況に置かれた人と話すことができないが、広域であるため同じ境遇の人と会えたといった声が会場から聞かれた。



開催結果

- 参加者は37名であった。20代8名、30代8名と若い世代の参加も多かった。
- アンケートでは、他の職種の人と話すことができて良かったという意見や、つながりの重要性がわかったといった意見が得られた。
- また、今後の行動変容につながる内容として、もっとできることがあると思った、地域とのつながりをつくりたい、といった意見が出された。

分類

意見・感想

他の職種との意見交換がよかった

- 多職種の方の声や思いを聴けた
- 色々な職種の人と話ができて良い刺激になった
- 普段、関わりの少ない職種の方と話せた
- 知らない話、情報を知ることができた
- 色々な立場や職種で考え方も違うので良かった
- 様々な分野からの参加があり、楽しかった。

つながりの重要性がわかった

- 連携する・つながりを作ることの大切さが理解しやすかった
- 身近なところからのつながりが大切だと思った
- つながることの必要性、重要性がわかった

今後に向けた抱負

- 包括としてできることがもっとあると思った。
- 地域とのつながりを作りたい。考えていきたい。

【C.試行的事業一覧】_3. PFメンバーの視察研修

概要

• PFの参画団体と広島県福山市の「鞆の浦・さくらホーム」、香川県琴平町の「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」を視察し、意見交換を実施した。成果を踏まえてPFの今後の活動に資するレポートを作成した。

工夫点

• 視察するだけでなく、意見交換会を開催するとともに、参加者に参加レポートとして今後の鳥取市および麒麟のまち圏域での取組に活かせることを検討、整理してもらった。

ねらい

• PFメンバーが孤独・孤立対策についての理解を深め、新たな視点を取り入れて自ら考えること。

結果

• 視察で新たなアイデア等を知ることができ、参加者レポートを通じて今後麒麟のまちでやりたいこと、やるとよいと思うことの案が複数挙げられた。
• 視察研修を通じて、PFメンバーの関係性の強化やつながりができた。

開催概要

日時：令和6年12月10日（月）～11日（火）

視察先：

12月10日（月） 広島県福山市「鞆の浦・さくらホーム」

12月11日（火） 香川県琴平町「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」

視察においては、鳥取市のPFの取組を紹介したのちに、視察先の取組について紹介いただき、質疑・意見交換を実施した。

参加者にレポートを依頼し、視察における気づきや麒麟のまちの参考になること等について報告してもらった。

実施結果

レポートに記載された気づき（一部抜粋）

- 琴平町を参考に広域連携ではそれぞれの町の良さを活かせるように活動すべき
 - 住民主体で動かすには住民の手の届く範囲での支援が重要。
 - まちづくりの観点と顔の見える関係の構築が重要
- 麒麟のまちのPFで今後やりたいこと、やったらよいと思うこと
- 居場所づくり、まちづくり、住民との協働、終活支援、支援者の広域連携など
- 視察のメリット
- 今まで思いつかなかったアイデアが知れた、視察に同行するPFメンバーとの連携強化、多角的な意見交換ができたなど

「鞆の浦・さくらホーム」の視察の様子



「社会福祉法人琴平町社会福祉協議会」の意見交換会の様子



【C.試行的事業一覧】_4.取組のブランディング・広報

概要	<ul style="list-style-type: none"> 官民連携PFやつながりサポーターの取り組みを広く周知し、地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらえるようブランディングを行った。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 官民連携PFとつながりサポーターの存在を広く周知し、地元の良い取り組みとして愛着を持ってもらうこと。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> 広報の効果を把握するために、テレビ、ラジオ、SNS、チラシ、サイネージ等のメディアMIXでの広報や地域でのコラボイベントを実施し、認知度調査で効果測定を行った。 	結果	<ul style="list-style-type: none"> 広報実施後のアンケートではつながりサポーターの認知度は41%となった。どこで知ったかでは、新聞折込の効果が高い可能性が示唆された。また、TVCMの効果も確認された。

広報の実施概要

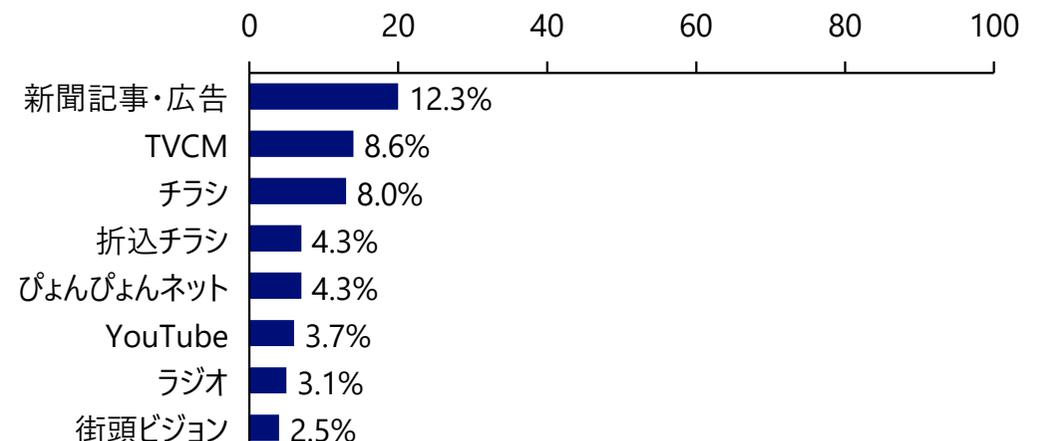
動画	内容・分量	出稿先	日程
テレビ	15秒CM 72本 (24本×3局)	日本海テレビ、さんいん中央テレビ、山陰放送	1月25日 (土) ~ 2月22日 (土)
	1分 インフォーマーシャル 3本 (3本×1局)	日本海テレビ	2月10日 (月) ~ 2月12日 (水)
ケーブル	5分 動画 ※令和5年度制作の動画から抜粋して制作	ぴよんぴよんネット	2月14日 (金)、 2月15日 (土)
ラジオ	深堀！インフォメーション・トーク！ (地域情報無料お知らせ枠)	FM鳥取	2月10日 (月)、 2月22日 (土)
SNS	YouTubeでの動画広報	YouTube	1月25日 (土) ~ 2月22日 (土)
サイネージ	屋外サイネージでのCM放送	市役所周辺施設 (鳥取まちビジョン、鳥取駅前、天神町)	1月25日 (土) ~ 2月22日 (土)
紙	内容・分量	出稿先	
新聞折込	B3二つ折り 80,000部	日本海新聞の麒麟のまちエリアに折込を実施	
ポスター	B2 250部	各拠点で貼付	

工夫点・成果検証結果など

- つながりサポーターを知っているかという設問では、41%が知っていると回答した。いつ頃知ったかの設問では34%が今年1月以降と回答した。
- つながりサポーターをどこで知ったのかという設問では、市報が最も多く39.9%、次いで、養成講座、関連イベント (フォーラムや講演会) が多い結果となった。
- 今回実施した広報では、新聞・広告が最も多く12.3%※、次いでテレビの8.6%、チラシの8.0%の順で多い結果となった。新聞による広報の効果が大きく見られた。

※新聞折込については、選択肢のうち、新聞記事・広告、チラシ、折込チラシに分散した可能性がある。

つながりサポーターを何で知ったか (N=163)



【C.試行的事業一覧】_5.つながりサポーター養成講座の開催・拡大検討

概要

- 鳥取市以外の麒麟のまちにおいて、つながりサポーター養成講座の集合型研修を開催した。
- 今後のつながりサポーター養成講座の拡大にむけた検討を実施した。

工夫点

- 広域連携のきっかけとしてつながりサポーター養成講座を展開した。
- 今後のつながりサポーターの展開を見越して、登録した人が活躍できるように研修を実施したり、専門職向けの講座などを検討した。
- つながりサポーター養成講座が今後広がっていくことを見越してリーダーの必要性を検討していく予定。

ねらい

- 麒麟での広域のPFにおいて共通のキーワードとしてつながりサポーターを育成すること。
- 専門職に伴走支援の情報を提供したり、つながりサポーターとして登録した人を対象に知識を広げたり、つながりサポーター養成講座の拡大にむけて人材を育成するなど、今後の展開についても検討すること。

結果

- つながりサポーター養成講座の拡大にむけて必要なことを検討し、講座の種類（専門職向け）を増やす、受講後のつながりサポーターへの研修、つながりサポーター養成講座を担う人材の育成等を今後も進める。

実施概要

- 鳥取市以外の麒麟のまちにおいて、つながりサポーター養成講座の集合型研修を開催した。
【PFの一環として各地で開催した講座】
 - 職員向け：八頭町（12/20）、
 - 民生委員向け：新温泉町、岩美町
- つながりサポーターの展開にむけて、ニーズを受けて以下の講座について検討を実施した。
【専門職向けのつながりサポーター養成講座】
 - 一般市民よりもケースを専門職の実態に即した形とする方針で検討した。
 - 10月9日（水）に検討会を開催し、求められる視点や内容を議論した。
 【つながりサポーターフォローアップ研修】
 - つながりサポーターとして登録した人を対象にフォローアップとして、情報の再確認や、新しい情報のインプットを行う研修を開催した。鳥取大学医学部孫大輔氏を講師に呼び、新しい知識やスキルのインプット、グループワーク、研修を行った。研修後はつながりサポーター同士の交流の場とした。
 【つながりサポーターリーダー養成研修】
 - つながりサポーターの事業拡大に伴い、グループワークのファシリテーター、将来的には講座そのものを運営できる人材の養成、確保にむけてリーダー養成の研修も今後検討していく予定とした。

開催風景

つながりサポーター養成講座の集合型研修



つながりサポーターフォローアップ研修



【C.試行的事業一覧】_6.つながりミーティング（地域型つながりサポーター交流会）

概要

• つながりサポーターが今後地域を支えていくための基盤づくりとして、つながりサポーター同士、つながりサポーターと支援団体のつながりが必要だという声を受けて、交流の場としてつながりミーティングを開催した。

工夫点

• つながりサポーターとして活躍するためには、支援者が孤独では動きづらいため、支援者同士がつながれる場を提供すること。
 • あわせて、つながりサポーターが支援につなぐ際に困らないようにつながりサポーターと支援機関の顔の見える関係を構築することも目指す。

ねらい

• つながりサポーターの研修・交流会を開催することで、つながりサポーターが地域で活動しやすい環境を整備する。

結果

• つながりサポーターの所在を知ることができた、つながりサポーターと支援団体の顔が見える関係性ができた等という声があった。一方で、もっと多くのつながりサポーターとつながりたいという意見もあった。

開催概要

- 12月14日に高草地区で開催した。
- 高草地区のつながりミーティングには、つながりサポーター12名と支援機関6名、その他5名が参加した。
- 地区別にグループを組むことで、より近い地域の人と知り合えるように工夫した。
- つながりサポーターへの負荷が高くなりすぎないように、参加者は希望制とした。

つながりミーティングの開催の様子



参加者アンケートの結果

- 実施後のアンケートでは、参加者のうち85%がつながりミーティングにおいて、新しいつながりができたと回答した。
- また、定性的な回答として、つながりが作れた、つながりサポーターの役割がわかった、などの意見が出て、つながりサポーターの活躍につながる効果が見られた。

分類	回答の内容
つながりをつくることができた	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の方と顔を合わせることができて、関係機関を知ることができて良かったです。 • この会を通じて、つながることができたのでとても良い機会でした。 • 包括支援センター等、支援機関が何をしているのか知ることができた。
つながりサポーターの活動や役割がわかった	<ul style="list-style-type: none"> • 活動方法がなんとなくわかったように思う。 • つながりサポーターとして、どのように動いていけば良いのかを少し知ることができました。 • 今後の活動の道が少し見えたような気がしました。 • つながりサポーターの人が問題解決をしようとするのではなく、一人で抱え込まずにつなぐということを改めて意識することができた。

【D.PF構築プロセスにおける留意点】



【E.ブレイクスルー要因】 広域で共通のキーワードとしてつながりサポーターを推進

令和6年4月

令和6年9月～令和7年2月

令和7年3月

取り組み課題

1. 広域での連携に際しては、温度感の違いがある
2. つながりサポーターが活動するにはつながりサポーター同士のつながりが必要との声が出た
3. つながりサポーター養成研修の認知度が低かった。

その後の変化

1. 広域でのPFを立ち上げることができた
2. つながりサポーター同士、またつながりサポーターと支援機関がつながることができた。また、さらなるニーズを取得することができた。
3. 新聞やTVCMの効果によりつながりサポーターを新たに認知してもらうことができた。

アクション／ブレイクスルー要因

1. 共通に関心が持てるものとして「つながりサポーター」を活用
各地域の取組方法は尊重する
2. つながりミーティングを開催し、つながりサポーター同士が
つながれる機会を企画した
3. メディアMIXでの広報活動を実施した。